

お仕事

『パン屋さんになるには(なるにはBooks79)』
エコー社大阪製パンマスターカレッジ編著
ペリカン社 2008年

1章ではドンクや帝国ホテルなどパン屋で働かれている方々の経験のお話。2章では、パンの基礎知識とパン屋の仕事内容のお話。3章では、パン屋さんになるための適性と心構え・学校や資格などの説明が載っています。ブーランジェ(パン職人)を目指している方は必読です。

『世界を救うパンの缶詰』菅聖子文 やましたこうへい絵
ほるぷ出版 2017年

3年も保存可能なパンの缶詰の心あたたまるおはなしです。発明されたのは、パン職人の秋元義彦さん。パンの缶詰は、日本の被災地だけでなく救缶島プロジェクトで、世界中の災害現場や飢餓に苦しむ国にも届けられています。この本を読めばパンの缶詰の重要さに気づくことでしょう。



パン

みなさんはどんなパンが好きですか？
神戸には美味しいパン屋さんがたくさんありますが、
本でパンの世界に浸ってみませんか？

はと時計 1 2月号

松蔭中高図書館 2019年12月9日発行

library@shoin-jhs.ac.jp

担当：和田

調べる

『おいしいハンバーガーのこわい話』エリック・シュローサー著 チャールズ・ウィルソン著、宇丹貴代実訳 草思社 2007年

みんな一度は食べたことのあるファーストフード店のハンバーガー。手軽に食べられるので重宝しますが、この本を読めば、いいことばかりではないことに気づかされます。どのようにして作られているのか、ハンバーガーができた背景から工場のヒミツまでわかります。



『パンの文化史』舟田詠子著 朝日新聞社 1998年

パンとは何かの根本的な定義やパンはなぜふくらむのかという発酵の仕組みから古代のパンや中世のパンについて詳しくまとめられている本です。クリスマスプレゼントの起こり、聖ニコラウス(サンタクロース)の贈り物の一つが、パンだったことも説明されています。



『パンの絵本(つくってあそぼう10)』片岡芙佐子編 山福朱実絵 農村漁村文化協会 2005年

古代のパンや世界のパン、パンの種類、パンの発酵、酵母(イースト)の構造、作り方など絵とともに詳しくわかりやすく解説されています。あんぱんやジャムパンそしてカレーパンが日本で生まれたことについても書かれています。

読む

『まぼろしのパン屋』松宮宏著 徳間文庫 2015年

主人公は大東京電鉄のサラリーマン高橋。家でパン作りに凝っている奥さんに毎朝小言を言われながら出勤する。ある日、電車の中で老女からパンを受け取る。白い紙袋にはしあわせパンと店名が書かれていて、中に入っているパンがとってもおいしい。おいしいパンが忘れられなくて場所を調べみると大東京電鉄が土地開発で立ち退きを進める一帯であった。実際に場所へ行ってみると、パン屋はすでに廃屋となっていて...。終盤では奇跡が起こります。しあわせとは何かを考えさせてくれます。他、神戸の焼肉のおはなし「ホルモンと薔薇」・姫路のおでんのおはなし「こころの帰る場所」の二つの短編も収録しています。

『サンドウィッチは銀座で』平松洋子著 谷口ジロー画 文春文庫 2013年

『美味しんぼ』のようにグルメのお話が好きな人は必見です！この本はタイトルに“サンドウィッチ”の名がついていますが、さまざまな四季の旬の食べ物が登場します。『孤独のグルメ』でも有名な谷口ジローさんの素敵なお挿絵にもぜひ注目してみてください。



『真夜中のパン屋さん 午前0時のレシピ』大沼紀子著 ポプラ文庫 2011年

23時~29時の真夜中の時間帯だけ営業している不思議なパン屋さん。オーナー兼弟子の暮林とパン職人の弘基の二人で店を営んでいる。ある日、オーナー暮林の奥さんの異母姉妹と名乗る女子高生希実が居候としてやってきて...個性豊かな人たちが登場します。読んでいると心まであたたかくなります。シリーズ全6巻です。



作る

『輝けフランスパン 家庭で作るホンモノの味』渡邊政子・松岡徹共著 雄鶏社 1997年

この本はフランスパンについて深く知りたい人にオススメです！フランスパンには様々な種類があるって知っていましたか？棒状のフランスパンは、太さや長さで言葉が異なります。例えば、バゲット(長くほどよい太さ)・バタール(短く太い)・パリジャン(長く太い)その他、ラグビーボールのような形のクーペ、麦の穂の形をしたエピ・きのこの形をしたシャンピニオンなどがあります。クラシカルな挿絵とともに、フランスパンのおいしさのヒミツを紹介しています。

『パンの教科書ビギナーズ これならできそう!』栗山有紀著 新星出版社 2011年

初めてパン作りをしたい人にはオススメの本です。必要な材料と道具など基本的なことから解説されています。作り方も見やすく丁寧に書かれているので、この本を読んだらきっと作りたくなるはずです。ホームベーカリーはじめ、食事パン(山形食パンなど)・おかずパン(ソーセージロールなど)・おやつパン(メロンパンなど)・天然酵母と米粉パン・発酵なしの超お手軽パンまで紹介されています。

『絵本からうまれたおいしいレシピ』西山千香子編 宝島社 2005年

絵本で見たことのある懐かしいパンが作れます。例えば、『ハイジ』の白パン黒パン・『からすのパンやさん』の動物パン・『ぐりとぐら』のかぼちゃむしパン・『ふしぎのくにのアリス』のイギリスパンとスコーンなどが紹介されています。『ふしぎのくにのアリス』のスコーンでは、“パン生地と違いスコーン生地はこね過ぎないように仕上げる”といったポイントもしっかり記載されています。

『ドイツパン大全』森本智子著 誠文堂新光社 2017年

おながすいている時に見るのはキケンです...食べたくなります(笑)ドイツのパンは大きいサイズのパンだけでも300、小さいものだと1200あるとされています。重量、材料、割合、使用される主要穀類の比率などにより、法律で分類、および名称が決められています。この本では、作り方だけでなく、ドイツのエリアや、穀類、発酵方法、シチュエーションなど、ドイツの食文化までわかります。



毎年恒例の司書が選んだ今年の一冊です。2019年の一冊、あなたはどんな本を選びますか？

司書今年の一冊
『日本のヤバい女の子』はらだ有彩著
柏書房 2018

この本は5月の司書の部屋で紹介した本です。私は毎月「関西の本」を選んでいて、著者のはらださんが兵庫県出身というところからピックアップ。いい意味でも悪い意味でも「ヤバい」としか言い表せない女の子が続々登場。しかもみんな神話や伝説に出てくる女の子なんです。現代の女の子にとって、関係ない！と言い切れない不条理がポンポン飛び出してくる1冊。怒りとか悲しみって不変なんだな...おすすめは「人間やめる女の子」たちの章。かぐや姫やオシラサマが出てきますよ 今年第2弾が出版され、刊行記念イベントに行ってきました。お話を聞き、本にサインもいただいて大満足の1日になりました。(高田)



司書今年の一冊
『ディズニーとは何か』有馬哲夫著
NTT出版 2001

2019年は、特にディズニー映画が多かったなぁと思いました。というのも、この一年で実写映画「メリー・ポピンズ リターンズ」「ダンボ」「アラジン」「ライオンキング」、ピクサー映画の「トイ・ストーリー4」を映画館で観ました。3つの実写映画は、内容がわかっているにもかかわらず観ると新鮮に思いましたし、感動しました。なぜこんなにもディズニーがいろんな世代に親しまれているのか、『ディズニーとは何か』有馬哲夫著 NTT出版 2001年を読むとわかります。この本を読んで、ディズニーと手塚治虫が影響し合っていたことが印象に残っています。ちなみに今年、手塚治虫記念館にも行きました。ディズニーとジブリの合作アニメーション映画についても書かれていたので、実現できる日が待ち遠しいです。(和田)



司書今年の一冊
『三つ編み』
レティシア・コロンバニ著
齋藤可津子訳 早川書房 2019

この本は、国、年齢、境遇が全く異なる3人の女性の物語です。インドのスミタは、最貧層に生まれた為に仕事は排泄物の回収です。娘を学校に入れることを強く望む女性。イタリアのジュリアは、事故にあった父親に代わって突然毛髪加工会社の経営者になります。カナダのサラは、シングルマザーの弁護士。乳がんにかかったことで出世の道が閉ざされてしまいます。共通点は、女性であるが故の生き難さを抱えるということ。3人の人生が三つ編みのように織りなされて物語は進行し、最後は希望の三つ編みとなります。スミタの場面は余りにも悲惨で読むのが辛い位ですが、強い意志は明るい未来を拓く、と前向きになれる一冊でした。(高村)



司書今年の一冊
『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 プレイディみかこ著
新潮社 2019

元底辺校のイギリスの中学校に入学した日本人ハーフの男の子(著者の息子)のお話で、制服が買えなくて困っているクラスメートに中古の制服をリフォームしたものを渡すとき、著者親子は悩みます。相手が貧乏だから渡す、ということになると相手のプライドを傷つける。どういえば傷つけずに渡せる？息子さんはケロッとその悩みを突破します。本屋大賞2019ノンフィクション本大賞受賞作。エンパシー(他人の立場を考える能力)がキーワードです。今一番求められる能力ですね。格差を乗り越えたヒーローがでてくる水泳のシーンも胸熱でした!(真鍋)



12月4日にアフガニスタンで武装集団に撃たれて死亡した中村哲医師の追悼コーナー作ってます。アフガニスタンでハンセン病や貧困層に多い病気の診療に当たっていた彼は、水こそ彼らの命を救うものと井戸を掘る事業を始めました。今年で30年の節目の年でした。**「テロの発生する土壌からなくしていかないと、テロはなくなる。本当に人の気持ちを変えらるというのは、決して武力ではない」**市民による丸腰の支援こそ平和に貢献するという信念を貫いた人でした。『アフガニスタンの診療所から』『医は国境を越えて』『カラー版 アフガニスタンで考える 国際貢献と憲法九条』『人は愛するに足り、真心は信ずるに足るアフガンとの約束』貸出できます。各新聞の記事・社説も日経テレコン21で読めます。



2019年(令和元年)12月9日発行
松蔭中高図書館広報誌 はと時計218号

11月チャリティセールの寄付金は5,660円になりました。ご協力ありがとうございました。

関東地方の台風災害へ(日本聖公会を通じて)長野県の台風被害(ヒューマンシールド神戸を通じて)被害者の方に送られます。(6月の寄付金は3,610円でSVAアジア子ども基金に振込みました)冬休み貸出実施中! 図書10冊まで貸出可能。1月8日(水)に返却。

冬休み開館日程
12月23日(月)
~26日(木)、
1月7日(火)
8:45~16:15
8日(水)から通常開館。